



協会ニュース

第34号

平成25年 2月 1日発行

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町15-17 (日本基礎技術株式会社内) TEL. (03) 3476-5721

homepage: <http://rocktech.jp/> E-mail: rocktech@muse.ocn.ne.jp

技術力の所在

岩盤削孔技術協会
会長

見波 潔



東日本大震災の復興工事や国土の強靱化に向けて、建設業の果たす役割が大いに期待されています。その一方で、全体的には仕事量が減少傾向にあり、公共事業部門では行政組織(国、地方自治体等)の組織の合理化・縮小が進められています。また、民間側においても、受注競争が激化し、官民ともに組織の合理化・縮小、団塊の世代の大量退職による熟練技術者の減少等により、我が国の建設生産システムの各プレイヤー(発注者、コンサルタント、ゼネコン、専門工事業等)が保有する技術力が受け継がれづらくなりつつあるのではないのでしょうか。

分業化が進行し、重層下請け構造となっているこの業界で、これまで受け継がれてきたノウハウをいかに継承していくか、さらに全体の技術力をいかに向上させるかが、これからの重要な課題だと思います。

「技術は現場で培われ、技術は人に宿る」ということからすれば、まず第一にすべきことは、マニュアルやアウトソーシングのみに頼ることなく、現場に帰帰し、現場に課題や夢を求めることでしょう。第二に、若い人材への技術の継承です。技術者、基幹技能者、オペレータなどの各分野で、技術力を発揮して働くことがプロの誇りと思えるような環境作りと待遇改善が、若者の入職の促進につながると思います。

岩盤削孔は各種建設プロジェクトで必ず必要とされる工法の一つであり、地盤・岩盤という自然を相手にするため、永年に渡って蓄積されてきた経験、ノウハウ、技術力が不可欠です。現場に真摯に向き合い、工事従事者に宿る技術力を生かして、社会に貢献し、発注者ひいては国民の皆様の期待に応えたいものです。

岩盤削孔技術協会は大口径岩盤削孔工法の普及および技術の向上を図ることを目的として、高い技術力を有する施工専門業者ならびに機械製作会社を会員として平成元年に設立されました。会員各社のご努力と協会の活動が相まって、本工法が今日までに健全に発展してきたものと自負しております。

協会では、発注者、設計者、施工者からの様々な技術的問い合わせや要請に対応すべく、会員各位のご協力を得て日々工法の普及に努めており、平成24年8月には「リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料 平成24年度版」を発行しました。平成25年度は「大口径岩盤掘削工法・施工機械技術資料 第7版」、「会員施工会社施工実績調査表(平成24年4月～平成25年3月)」の発行を計画しております。

これらに加えて、(一社)日本建設機械施工協会主催の「橋梁架設・大口径岩盤削孔の施工技術と積算及び建設機械等損料」講習会に講師を派遣し、大口径岩盤削孔の施工技術と積算について広く普及に努めてまいります。また、技術相談の受付や協会ニュースの発行など外部への情報発信や会員相互の情報交換をインターネットを活用してより効果的に行ってまいります。

技術を大切にする会員の皆様とともに大口径岩盤削孔技術を育て、発展させて参りたいと考えておりますので、一層のご支援をお願い申し上げます。